
大会長講演**5月30日(土) 9:10～9:50****第1会場 3F 国際交流会議場****心療内科医からみた不安**

座長：吉内 一浩 東京大学医学部附属病院 心療内科

演者：端詰 勝敬 東邦大学医学部 心身医学講座

特別講演**5月30日(土) 15:20～16:20****第1会場 3F 国際交流会議場****社会的決定要因 (Social determinants) に着目した思春期のうつ・不安の予防：
学校環境への働きかけを中心に**

座長：浅見 剛 横浜市立大学大学院医学研究科 精神医学

演者：西田 淳志 東京都医学総合研究所 社会健康医学研究センター

教育講演 1

5月30日(土) 9:50～10:50

第1会場 3F 国際交流会議場

座長：岩永 誠 広島大学 教育室上席特任学術研究員／広島大学 名誉教授

EL1 総合診療×不安 ～不安診療における総合診療医の役割～

佐々木陽典 東邦大学医学部 総合診療・救急医学講座

教育講演 2

5月30日(土) 11:30～12:30

第2会場 3F メディアホール

座長：端詰 勝敬 東邦大学医学部 心身医学講座

EL2 不安症 総説 ver.2

貝谷 久宣 医療法人和楽会 心療内科・神経科赤坂クリニック

教育講演 3

5月31日(日) 9:50～10:50

第2会場 3F メディアホール

座長：山田 和夫 横浜尾上町クリニック

EL3 身体症状症における不安の役割 –子どもから高齢者までの理解と臨床戦略–

富永 敏行 京都府立医科大学大学院医学系研究科 精神機能病態学

教育講演 4

5月31日(日) 11:30～12:30

第1会場 3F 国際交流会議場

座長：音羽 健司 帝京大学医学部 精神神経科学講座

EL4 産業衛生と不安 ～産業現場におけるストレスをとりまく諸問題の実状～

石川 浩二 三菱重工業株式会社 大江西健康管理チーム

**うつ病を診療していく上で「不安」の問題をどのように取り扱えばよいか
ーうつ病診療ガイドライン2025における「不安」の取り扱いー**

オーガナイザー：渡邊衡一郎 杏林大学医学部 精神神経科学教室

企画趣旨・ねらい

2025年12月、うつ病診療ガイドライン2025が公表された。本ガイドラインは従来のもとは大きく異なり、Mindsの基準に則って臨床疑問(Clinical Question: CQ)を設定し、さまざまなうつ病診療の場面においてどのように考え、どのように対応すべきかを示している。その中で「不安」の問題は多くの箇所でも取り上げられている。

そもそも、うつ病に併存する不安症関連疾患の頻度は高く、併存する場合にはうつ病がより難治化することが示されている。また、難治化や自殺リスクとの関連から、「不安性の苦痛(anxious distress)」という特定用語が設けられている。

本シンポジウムでは、まずガイドラインの概容を紹介した後、「不安性の苦痛」、「難治性うつ病(DTD)」における不安の問題、寛解後における不安への対応、さらに不安を併存するうつ病に対する精神療法的アプローチについて取り上げる。これらのテーマについて、ガイドライン執筆に関わったエキスパートの先生方にご議論いただく予定である。

座長：渡邊衡一郎 杏林大学医学部 精神神経科学教室
稲田 健 北里大学医学部 精神科学

SY1-1 うつ病診療ガイドライン2025の概容紹介

渡邊衡一郎 杏林大学医学部 精神神経科学教室

SY1-2 難治性うつ(DTD)における不安の影響

菊地 俊暁 慶應義塾大学医学部 精神・神経科学教室

SY1-3 「不安性の苦痛を伴う」の評価の重要性と対応

高江洲義和 琉球大学大学院医学研究科 精神病態医学講座

SY1-4 維持期治療における「不安」の取り扱い

稲田 健 北里大学医学部 精神科学

SY1-5 精神療法におけるうつ病の「不安」への対応

片山奈理子 慶應義塾大学 保健管理センター／医学部精神・神経科学教室

シンポジウム2

5月30日(土) 15:20～16:50

第2会場 3F メディアホール

SNS時代、不安症はどう変わるのか～その動向、対応を考える～

オーガナイザー：松永 寿人 兵庫医科大学医学部 精神科神経科学講座

企画趣旨・ねらい

最近のソーシャル・ネットワーキング・サービス(SNS)の普及は、コミュニケーションの促進、情報や知識の普及、社会との連帯感、自己表現の場の拡がりなど幅広いメリットを生む一方、自己肯定感や人間関係への影響、フェイクニュースの蔓延などの社会的リスク、あるいはプライバシーや情報の安全性に関する問題など、不安の病理に直接的、あるいは間接的に関わりうる重大なデメリットも存在する。このようにSNSの時代、これが国民全体のメンタルヘルスに及ぼす影響は、今後さらに拡大して多様化し多岐にわたる可能性がある。その中で「不安の病」の出現や表現型にどう関わるのか、どのような変化が生じうるのか、そしていかなる対応が必要なのか、本シンポジウムでは、デジタル社会における「不安の病の現在とこれから」に関し、各不安症やOCDのエキスパートの見解や展望を基に議論して、この動向や背景病理の理解を深め、効果的な治療介入モデルの在り方を探りたい。

座長：松永 寿人 兵庫医科大学医学部 精神科神経科学講座

塩入 俊樹 のぞみの丘ホスピタル／岐阜大学大学院医学系研究科 精神医学分野

SY2-1 SNS時代、パニック症はどう変わるのか～その動向、対応を考える～

塩入 俊樹 のぞみの丘ホスピタル／岐阜大学大学院医学系研究科 精神医学分野

SY2-2 SNS時代の社交不安症

朝倉 聡 北海道大学 保健センター

SY2-3 SNS時代、全般不安症はどうかわるのか？

大坪 天平 医療法人高仁会 戸田病院 精神科

SY2-4 SNS時代における強迫および関連症の現在とこれから

松永 寿人 兵庫医科大学医学部 精神科神経科学講座

**不安・うつ・月経前症候群におけるメンタルヘルスケアの評価指標の標準化に向けて
～GAD-7, PHQ-9, PMS-8の普及～**

オーガナイザー：清水 栄司 千葉大学大学院医学研究院 認知行動生理学

企画趣旨・ねらい

近年、メンタルヘルス領域において、行動変容を促す非対面型のデジタル介入やアプリケーションが急速に普及している。こうしたヘルスケア・サービスの拡大は、医療機関を受診していない人への早期支援やセルフケアの促進において重要な役割を担う。一方で、ユーザーが十分な情報を得た上で適切にサービスを選択できているか、また実際に個人にとって有益であるかについては、十分に検証されていない。その背景には、介入の有効性を評価する手法や指標が十分に整理・統一されていないという課題がある。こうした状況を踏まえ、本シンポジウムでは、特にヘルスケア・サービスの拡大が進む不安、うつ、月経前症候群に焦点を当て、各疾患における評価指標(GAD-7, PHQ-9, PMS-8)の整理を行うとともに、妥当な尺度によって個人の状態の変化を捉える視点や臨床的に意味のある最小重要差の検証について議論する。さらに、これらを踏まえた評価指標の標準化の可能性について検討する。

座長：清水 栄司 千葉大学大学院医学研究院 認知行動生理学

沼田 法子 千葉大学大学院医学研究院 認知行動生理学

SY3-1 メンタルヘルスケアにおける不安・うつのアセスメント

村松公美子 新潟青陵大学

SY3-2 月経前症候群(PMS) 評価尺度の測定特性の体系的検討

江川 美保 京都大学大学院医学研究科 婦人科学産科学

SY3-3 閾値下不安・うつ・PMSに対するデジタル介入の有効性と多面的アウトカムの検討

沼田 法子 千葉大学大学院医学研究院 認知行動生理学

SY3-4 患者報告式アウトカムの解釈における心理測定学的視座：測定不変性、最小重要変化、反応シフト

竹林 由武 福島県立医科大学医学部 健康リスクコミュニケーション学講座

シンポジウム 4

5月30日(土) 16:30～18:00

第3会場 4F 会議室1

不安および関連障害研究をめぐる国際発信と連携 – ACBTA 2027に向けて –

オーガナイザー：石川 信一 同志社大学 心理学部
高塩 理 東京医科大学 精神医学分野／東京医科大学 八王子医療センター

企画趣旨・ねらい

不安症は有病率の高い精神疾患であるとともに、心身のさまざまな不調と密接に関連することが知られている。そのため、不安症研究においては、不安症そのものにとどまらず、併存疾患や関連障害を視野に入れた幅広い検討が重要となる。わが国で唯一、不安症を中心課題とする学術団体として、日本不安症学会には、国内における疾患理解の深化に加え、国際的な研究ネットワークの構築と発信を担う役割が期待されている。そこで本シンポジウムでは、不安および関連障害研究に焦点を当て、国際的に研究活動を展開してきた4名のシンポジストが、それぞれの立場から国際発信や国際連携の実際、その意義と課題について共有する。本企画は、2027年に予定されているアジア認知行動療法学会との合同大会を見据え、日本からの国際発信のあり方を検討する機会として位置づけられる。本シンポジウムでの議論が、日本およびアジアからの研究発信のさらなる発展につながることを目指す。

座長：石川 信一 同志社大学 心理学部
高塩 理 東京医科大学 精神医学分野／東京医科大学 八王子医療センター

SY4-1 海外留学経験がなくてもできる国際研究ネットワーク構築：キャリア早期の挑戦と工夫

吉永 尚紀 宮崎大学医学部 看護学科

SY4-2 不安症研究の国際アジア比較展望

高塩 理 東京医科大学 精神医学分野／東京医科大学 八王子医療センター

SY4-3 神経性やせ症を対象とした認知行動療法に関する国際連携

吉内 一浩 東京大学医学部附属病院 心療内科

SY4-4 子どもの不安症の理解と支援：国内研究と国際連携の視点から

石川 信一 同志社大学 心理学部

不安症・強迫症の診療ガイドライン

オーガナイザー：朝倉 聡 北海道大学 保健センター

企画趣旨・ねらい

日本不安症学会は、日本神経精神薬理学会と共同で不安症・強迫症の診療ガイドラインを作成している。社交不安症の診療ガイドラインは2021年に公開され、パニック症の診療ガイドライン、強迫症の診療ガイドラインは2025年に公開された。いずれもシステマティックレビューに基づき、薬物療法、精神療法、併用療法についての推奨がなされている。全般不安症の診療ガイドラインについては、現在作成途中である。本シンポジウムでは、それぞれの診療ガイドラインについて推奨と実臨床への適用方法、また推奨には至らなかったものの補遺にて記載されている実臨床で工夫の可能性のある治療法等紹介し、本邦における不安症・強迫症の診療に役立てるよう討論を行う予定である。

座長：朝倉 聡 北海道大学 保健センター

松永 寿人 兵庫医科大学医学部 精神科神経科学講座

SY5-1 パニック症の診療ガイドライン

塩入 俊樹 のぞみの丘ホスピタル／岐阜大学大学院医学系研究科 精神医学分野

SY5-2 社交不安症の診療ガイドライン

朝倉 聡 北海道大学 保健センター

SY5-3 強迫症(OCD)治療ガイドラインの臨床的実践～今後何が必要か

松永 寿人 兵庫医科大学医学部 精神科神経科学講座

SY5-4 全般不安症の診療ガイドライン –作成状況のご報告–

高塩 理 東京医科大学 精神医学分野／東京医科大学 八王子医療センター

シンポジウム6

5月31日(日) 9:50～11:20

第3会場 4F 会議室1

身体症状症および関連症群・心身症と不安

オーガナイザー：竹内 武昭 東邦大学医学部 心身医学講座

企画趣旨・ねらい

本シンポジウムでは、身体症状症・関連症群や心身症における不安の理解と包括的支援のあり方を多角的に議論することを狙いとしています。不安症状は単独の精神症状にとどまらず、身体症状として現れることがあり、患者の生活機能や治療反応に深く影響します。精神科領域のスペシャリストである佐々木先生からは、不安の臨床像と診療の現状・課題についての知見を共有いただき、心理的アプローチのエキスパートである本谷先生には、認知行動療法をはじめとした心理療法的視点から不安への介入法を提示いただきます。また、心療内科領域の第一線で活躍される菊地先生・福土先生には、心身医学的観点から不安と身体症状との関連、診療の実際と連携・統合的治療の可能性について解説いただきます。本シンポジウムが、不安を伴う身体症状・心身症への理解深化と臨床実践の発展につながる機会となることを目指します。

座長：竹内 武昭 東邦大学医学部 心身医学講座

SY6-1 心身症における不安の臨床と課題：一精神科医の観点で

佐々木 司 東京大学 名誉教授／
公立学校共済組合 関東中央病院 メンタルヘルスセンター

SY6-2 身体疾患と不安の関連～心療内科の立場から

菊地 裕絵 国立健康危機管理研究機構 国立国際医療センター 心療内科

SY6-3 身体疾患における不安の理解と対応～心理士の立場から

本谷 亮 北海道医療大学 心理科学部

SY6-4 腸脳関連病と不安

福土 審 石巻赤十字病院 心療内科／東北大学先端量子ビーム科学研究センター

不安症患者を支える医療と民間の協働

オーガナイザー：稲田 泰之 医療法人悠仁会 稲田クリニック

企画趣旨・ねらい

不安症の治療においては、公共交通機関の利用や職場復帰といった生活圏における社会活動の維持や拡大が重要な目標となる。この目標を達成する上では、専門的介入に加え、患者が接するサービス提供者や就労する組織の理解と支援が望まれるが、不安症は一般認知度が低く、民間での配慮や支援には多くの課題がある。

本シンポジウムは、疾患啓発・生涯教育委員会の企画として、医療と民間がいかに連携し啓発を推進し得るか、その可能性を検討する。医療側からは、社会活動の基盤となる移動や就労に関する疾病教育の実践、および認知行動療法の観点から社会参画を促すアプローチ、医療側からみた民間の課題を報告する。民間側は「顧客への支援や配慮」と「従業員への支援や配慮」という二つの側面から検討を加える。本シンポジウムを通じ、医療機関と民間組織の双方が現状の課題を整理し、参照し得る実践例を提示することで、不安症を抱える人々を社会全体で支えるための具体的なヒントを得る機会としたい。

座長：稲田 泰之 医療法人悠仁会 稲田クリニック

石川 信一 同志社大学 心理学部

SY7-1 不安症患者のQOLを高める疾病教育と社会課題：精神科医の立場から

稲田 泰之 医療法人悠仁会 稲田クリニック

SY7-2 認知行動療法による不安症治療の実際と民間協働

福井 至 東京家政大学 人文学部 心理カウンセリング学科

SY7-3 航空機内パニック症旅客への対応力向上の取組み -客室乗務員と専門医の連携による実践的ガイドライン策定-

平賀 一代 全日本空輸株式会社 オペレーションサポートセンター
フライトオペレーション推進部 客室基準チーム

SY7-4 不安症をもつ従業員への対応や配慮の取組み：産業医の立場から

辻 洋志 南森町CH労働衛生コンサルタント事務所

シンポジウム 8

5月31日(日) 13:40～15:10

第3会場 4F 会議室1

社交不安症における自己注目と他者注目－心脳身相関を利用した介入可能性

オーガナイザー：富田 望 実践女子大学 人間社会学部／早稲田大学 総合研究機構

企画趣旨・ねらい

社交不安症では、自己の身体感覚や思考へ過剰に注意がむく「自己注目」や、脅威的な他者へ過剰に注意がむく「他者注目」といった注意の偏りが、症状の維持要因とされている。近年では、主観的心理指標(心)、脳機能計測などの神経指標(脳)、視線計測や自律神経反応などの身体・行動指標(身)を統合的に測定することで、これらの注意の偏りを可視化し、心・脳・身体の相互関係として理解する研究が進んでいる。本シンポジウムでは、心脳身相関の観点から自己注目と他者注目に関する最新の研究知見を紹介し、社交不安の病態理解への貢献と、それらを標的とした新たな介入可能性について議論する。

座長：熊野 宏昭 早稲田大学 人間科学学術院 応用脳科学研究所

富田 望 実践女子大学 人間社会学部／早稲田大学総合研究機構

指定討論：吉永 尚紀 宮崎大学医学部 看護学科

SY8-1 自己注目・他者注目の神経・行動指標に基づく理解と変容可能性

富田 望 実践女子大学 人間社会学部／早稲田大学総合研究機構

SY8-2 社交不安症に対する視線コミュニケーション・トレーニング装置の臨床応用可能性

松本 淳子 千葉大学大学院医学研究院

SY8-3 複雑ネットワークモデルに基づく社交不安症の介入ターゲットの探索－自己注目と他者注目の観点から－

野田 昇太 Philipps-Universität Marburg, Department of Psychology /
武蔵野大学 認知行動療法研究所

日常臨床に潜む身体症状症(SSD)ークリニカルクエストで整理する支援と治療の指針

オーガナイザー：富永 敏行 京都府立医科大学大学院医学研究科 精神機能病態学

企画趣旨・ねらい

身体症状症(Somatic Symptom Disorder：SSD)は、過敏性腸症候群など心身症、うつや不安とも重なる。診療所や総合診療科の受診者数の約25%がSSDとされ、市中有病率も約5～7%と推定されており、SSDは日常臨床に潜んでいる。しかし、医療者間で十分に共有されているとは言い難く、診断や対応に戸惑いが生じる領域である。

内科、心療内科、精神科のみならず、小中学校など学校現場、就労者の産業メンタルヘルスでカウンセリングを依頼される場面も多いが、診療場面での実践的指針はまだ整理されていない。

本ワークショップでは、SSDを整理しながら架空の典型症例を用いて、「本症例にカウンセリングは推奨されるか」「身体的検査を勧めるか」「SSRIは推奨されるか」などクリニカルクエスト(現場で直面する具体的な疑問)を設定する。薬物療法、心療内科的視点、心理支援の立場から多面的に検討し、治療構造を議論する。SSDを聞き慣れない方にもぜひ参加いただきたい。

座長：富永 敏行 京都府立医科大学大学院医学研究科 精神機能病態学

WS1-1 症例から考える診療アプローチ

富永 敏行 京都府立医科大学 精神機能病態学

WS1-2 身体症状症における不安と症状解釈：心療内科診療における評価と治療の視点

竹内 武昭 東邦大学医学部 心身医学講座

WS1-3 SSDに対する薬物療法の適応の可能性、妥当性、注意点ー治療ガイドライン作成に向けてー

高塩 理 東京医科大学 精神医学分野／東京医科大学 八王子医療センター

WS1-4 身体症状症(SSD)に対する心理的アプローチ：慢性疼痛診療の知見に基づく多面的検討

細越 寛樹 関西大学社会学部 社会学科心理学専攻

ワークショップ2

5月31日(日) 13:40～15:10

第2会場 3F メディアホール

「会食が怖い」を理解する

オーガナイザー：菊地 裕絵 国立健康危機管理研究機構 国立国際医療センター 心療内科

企画趣旨・ねらい

会食恐怖は、公衆の面前や他者と同席する場での食事に対して強い不安や恐怖を抱く症状・状態である。これは独立した診断単位ではなく、社交不安症の一症状として理解されることが多いが、摂食症をはじめとする諸疾患においても随伴しうる病態である。本ワークショップでは、3名の講師から、社交不安症、回避・制限性食物摂取症、神経性やせ症及び神経性過食症のそれぞれを背景とした「会食恐怖」について病態理解とアプローチを解説いただく。さらに、参加者自身も架空症例を用いた症例検討を行うことにより、患者が訴える「会食が怖い」という言葉を、どのように理解しどのように対処していくのかについて学ぶ機会としたい。

座長：菊地 裕絵 国立健康危機管理研究機構 国立国際医療センター 心療内科

WS2-1 社交不安症の食事への恐怖

山田 恒 兵庫医科大学 精神科神経科学講座

WS2-2 ARFIDと会食恐怖

磯部 昌憲 京都大学医学部附属病院 精神科神経科

WS2-3 AN, BNにおける会食恐怖

野原 伸展 東京大学医学部附属病院 心療内科

第6回日本不安症学会学術賞 受賞式・受賞講演

5月30日(土) 13:40～14:40

第1会場 3F 国際交流会議場

パニック症のデータ駆動型の脳機能画像解析から見えてきたこと：視覚情報処理と不安・恐怖の関係

座長：高塩 理 東京医科大学 精神医学分野／東京医科大学 八王子医療センター
演者：佐々木 亮 横浜市立大学 精神医学教室

共催シンポジウム1

5月30日(土) 11:00～12:30

第1会場 3F 国際交流会議場

日本における全般不安症診療の現在地とこれから

座長：清水 栄司 千葉大学大学院医学研究院 認知行動生理学

CS1-1 全般不安症 Overview：『不安神経症＝パニック症＝GAD』って本当？

塩入 俊樹 のぞみの丘ホスピタル／岐阜大学 名誉教授

CS1-2 全般不安症の診断－日常臨床における必要性－

朝倉 聡 北海道大学 保健センター

CS1-3 全般不安症の薬物療法－各国のガイドラインとわが国の現状－

大坪 天平 医療法人高仁会 戸田病院

共催：ヴィアトリス製薬合同会社 メディカル・アフェアーズ

共催シンポジウム2

5月31日(日) 13:40～15:10

第1会場 3F 国際交流会議場

うつ病に潜む“不安”を診る

座長：渡邊衡一郎 杏林大学医学部 精神神経科学教室

CS2-1 不安に関連した疾患とうつ病

松永 寿人 兵庫医科大学医学部 精神科神経科学講座

CS2-2 うつ病におけるdifficult-to-treat depression (DTD) の概念と不安症状の取り扱い

大坪 天平 医療法人高仁会 戸田病院

CS2-3 不安性の苦痛を伴ううつ病の評価と治療最適化

菅原 裕子 福岡大学医学部 精神医学教室

共催：大塚製薬株式会社 メディカル・アフェアーズ部

ランチョンセミナー1

5月30日(土) 12:40～13:30

第1会場 3F 国際交流会議場

座長：高塩 理 東京医科大学 八王子医療センター リエゾンセンター

LS1 Clinical Management of GAD: Advances in Diagnosis, Therapy, International Guidelines: the role of Venlafaxine XR

Borwin Bandelow Psychiatry and Psychotherapy at the University of Göttingen

共催：ヴィアトリス製薬合同会社

ランチョンセミナー2

5月30日(土) 12:40～13:30

第2会場 3F メディアホール

座長：浅見 剛 横浜市立大学大学院医学研究科 精神医学

LS2 リカバリーを目指したうつ病診療について
ーうつ病診療ガイドライン2025を読み解くー

坪井 貴嗣 杏林大学医学部 精神神経科学教室

共催：武田薬品工業株式会社/ルンドベック・ジャパン株式会社

ランチョンセミナー3

5月31日(日) 12:40～13:30

第1会場 3F 国際交流会議場

座長：吉内 一浩 東京大学医学部附属病院 心療内科

LS3 医療安全を踏まえた不眠症治療とデエビゴの出口戦略

高塩 理 東京医科大学 八王子医療センター リエゾンセンター

共催：エーザイ株式会社

ランチョンセミナー4

5月31日(日) 12:40～13:30

第2会場 3F メディアホール

座長：坪井 貴嗣 杏林大学医学部 精神神経科学教室

LS4 不安・うつ・ひきこもりの新たな視点 ～ミクログリア病態仮説を中心に～

加藤 隆弘 北海道大学大学院医学研究院 神経病態学分野 精神医学教室

共催：塩野義製薬株式会社 産官学連携部

イブニングセミナー

5月30日(土) 17:10～18:00

第2会場 3F メディアホール

座長：松永 寿人 兵庫医科大学医学部 精神科神経科学講座

ES パニック症治療の最前線ーデジタルコンテンツ活用の可能性

塩入 俊樹 岐阜大学大学院医学系研究科 精神医学分野／のぞみの丘ホスピタル

共催：emol株式会社

モーニングセミナー

5月31日(日) 8:50～9:40

第2会場 3F メディアホール

座長：吉内 一浩 東京大学医学部附属病院 心療内科

MS 片頭痛治療の最前線 ～片頭痛急性期治療と疾患進行予防における薬剤の使い分け～

笠井 英世 昭和医科大学医学部 内科学講座 脳神経内科学部門

共催：第一三共株式会社

優秀演題賞候補セッション

5月30日(土) 11:20～12:30

第3会場 4F 会議室1

座長：熊野 宏昭 早稲田大学人間科学学術院応用脳科学研究所
高江洲義和 琉球大学大学院医学研究科 精神病態医学講座

○-1 向精神薬および併存症の影響を除外した強迫症の視覚記憶：CANTABによる検討
松隈 航 九州大学大学院医学研究院 精神病態医学

○-2 小児期の海馬体積と強迫症状の発達的变化との関連
磯部 祐子 千葉大学国際高等研究機関／千葉大学大学院医学研究院／
日本学術振興会 特別研究員-RPD

○-3 全般不安症における社交不安の生物学的基盤としての左前頭極と血清GDNF濃度の関連
長野 智美 千葉大学子どものこころの発達教育研究センター／
大阪大学大学院連合小児発達学研究所

○-4 ストレス関連疾患患者における局所気圧変動と不安の関連についてのEcological
Momentary Assessment研究
服部 麻子 東京大学医学部 心療内科

一般演題1 社交不安・パニック・全般不安

5月30日(土) 14:50～15:25

ポスター会場 1F 多目的ホール

座長：中尾 智博 九州大学大学院医学研究院 精神病態医学
西川 將巳 つくば心療内科クリニック／川村学園女子大学 名誉教授

P1-1 全般型とパフォーマンス限局型社交不安症の疫学、遺伝学、神経画像、臨床的特徴、治療法の比較検討

藤兼 大輔 岐阜大学大学院医学系研究科 精神医学分野

P1-2 入学試験面接に不安を呈した登校回避傾向のあるASD生徒への支援

河村 暁 福岡教育大学教職大学院

P1-3 パニック症における島回の灰白質微細構造変化と副交感神経機能の関連

首藤 正茂 横浜市立大学医学部 精神医学教室

P1-4 Sex differences in salience network connectivity in social anxiety disorder

Nadire Aximu 千葉大学大学院医学研究 認知行動生理学／
子どものこころの発達教育研究センター

P1-5 メンタルヘルスにおいて全般不安症をスクリーニングする有用性

高塩 理 東京医科大学 精神医学分野／東京医科大学 八王子医療センター

一般演題2 薬物療法・治療

5月30日(土) 14:50～15:25

ポスター会場 1F 多目的ホール

座長：大谷 真 医療法人財団順和会山王病院 心療内科／国際医療福祉大学医学部 心療内科学
橋本 和明 東邦大学医学部 心身医学講座

P2-1 不安抑うつ発作(ADA)の薬物療法を示唆するTrace Fear Conditioning(TFC)モデル
貝谷 久宣 医療法人和楽会 心療内科・神経科赤坂クリニック

P2-2 大学病院におけるビッグデータ解析：ベンゾジアゼピン系抗不安薬とSSRI/SNRI薬の科別処方傾向
中尾 睦宏 昭和医科大学ストレスマネジメント研究所

P2-3 中国の大学生を対象とした就職活動不安低減プログラムの開発と有効性
董 潔 関西大学学生支援センター 心理相談室

P2-4 身体症状症に禅学的マインドフルネスを用いた自尊感情の検証研究のプロトコール
富永 敏行 京都府立医科大学大学院医学研究科 精神機能病態学

P2-5 X(旧Twitter)に反映された抗不安薬エチゾラムを巡る言説の構造－多次元尺度構成法による検討－
中谷 智美 名古屋産業大学

一般演題3 強迫症・心理

5月31日(日) 11:30～11:58

ポスター会場 1F 多目的ホール

座長：中尾 睦宏 昭和医科大学ストレスマネジメント研究所
竹内 武昭 東邦大学医学部 心身医学講座

P3-1 強迫症に対する集団と個別セッションのハイブリッド型認知行動療法：臨床現場での実施可能性と受容性

三田村康衣 国立精神・神経医療研究センター 認知行動療法センター／
東京慈恵会医科大学大学院

P3-2 低強度認知行動療法を主軸とした強迫症通院治療の2年間追跡調査

向井馨一郎 兵庫医科大学 精神科神経科学講座

P3-3 健常者の被害妄想様観念に不安と結論への飛躍バイアスが与える影響：統合失調症の妄想との比較

石垣 琢磨 東京大学大学院総合文化研究科

P3-4 Somatic Symptom Disorder-B Criteria Scale (J-SSD-12) の信頼性および妥当性の検証

富永 敏行 京都府立医科大学大学院医学研究科 精神機能病態学

一般演題4 疫学

5月31日(日) 11:30～12:05

ポスター会場 1F 多目的ホール

座長：村松 芳幸 河渡病院 心療内科
城月健太郎 武蔵野大学人間科学部 人間科学科

P4-1 Shared Genetic Etiology Between Specific Phobia and Other Psychiatric Disorders

大井 一高 岐阜大学大学院医学系研究科 精神医学

P4-2 小児不安症はオーファン病か？

貝谷 久宣 医療法人和楽会 心療内科・神経科 赤坂クリニック

P4-3 中高生におけるSNS利用に伴う対比的上方比較と精神的健康との関連

木下 正子 東京大学大学院教育学研究科 身体教育学コース

P4-4 身体症状症における不安を介した病状と中枢性感作の関連

橋本 和明 東邦大学医学部 心身医学講座

P4-5 身体症状を主訴とする不安症患者についての検討

小山 明子 東邦大学医学部 心身医学講座